

<全体分析>

試験時間 80分

<p>解答形式 選択式・記述式・論述式</p> <p>分量・難易(前年比較) 分量 (減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加 難易 (易化)・やや易化・変化なし・やや難化・難化</p> <p>近年の傾向を踏襲し、今年度も大問3題の構成。解答数は、昨年度の46個に対し、今年度は34個と減少し、一昨年度の35個に近いものとなった。論述問題は11問で、一昨年度・昨年度の10問とほぼ同じであった。資料・グラフの読み取りや論述の能力が求められる点で、思考力・表現力を求める経済学部の傾向通りといえる。昨年度は一部に難易度の高い問題が見られたが、今年度はそうした問題はほとんどなかったため、やや易化とした。</p> <p>出題の特徴や昨年との変更点 短い論述問題を多く出題する傾向や年代整序問題・資料問題の出題が経済学部の特徴で、今年度も全てのパターンが出題された。また、地図問題・グラフ問題・図版問題の出題も特徴で、昨年度出題されなかった図版問題が今年度は出題されたため、今年度は地図問題・グラフ問題・図版問題の全パターンの出題となった。総じて難解な知識が要求されるわけではないものの、資料やデータをもとに知識を応用する能力が求められており、単なる史実の丸暗記では太刀打ちできない。</p> <p>その他トピックス 慶應義塾大学経済学部は、以前から思考力・判断力を重視する出題を行ってきた。また、今年度の大問Iは、世界各地のル=コルビュジェの建築作品を取り上げることで、日本と世界を結びつけるテーマとなっているが、昨年度は近代の日本とドイツの関係、一昨年度は日本を訪れたケンペルなど、近年の経済学部の大問Iは、世界史の中の日本という観点から出題される傾向にあり、さらに経済学部の日本史と冒頭の文章を同じくしている。今年度は設問の1つが日本史と同一であった。2022年度の高校1年生から歴史総合が導入されたことを踏まえ、世界史・日本史の垣根を越えた歴史学習が強く意識されているといえるだろう。なお、冬期講習「早慶大世界史」で、問14の第1図と同様のグラフ問題を扱ったので、受講生は有利だったと思われる。</p>
--

<大問分析>

番号	形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択式 記述式 論述式	世界遺産に登録されたル=コルビュジェの建築作品(近世～現代)	問2。「19世紀後半における世界経済・貿易の変化」は、第2次産業革命や長期不況下での資本輸出を想起できるが、「アルゼンチンの主要輸出品」である牛肉や小麦は教科書記述に乏しく難しい。問3. ①6. c(ムスリム国家建設の主張)→b(インド・パキスタンの分離独立)→a(ガンディー暗殺の追悼)の流れで解ける。③空欄アには「毛織物」が入る。引用の資料は、2015年度経済学部で既出。問4. ②経済学部・日本史でも全く同じ問題が出題された。aは第二次世界大戦における日本の降伏に関する文書、bは「プノンペン」「サイゴン」などインドシナ南部の地名から日本の仏領インドシナ南部進駐に関する文書、cは「支那に境する印度支那の州に限り適用」から日本の仏領インドシナ北部進駐に関する文書と判断する。	標準
II	選択式 記述式 論述式	スペイン史(近世～近代)	問6. ②ユトレヒト条約でイギリスが獲得した北アメリカの領土は、ニューファンドランド・アカディア・ハドソン湾地方だが、アカディアは資料a中に見え、ハドソン湾地方は地図中に番号がないので、空欄アはニューファンドランドが入ると判断する。ただ、地図中5のアカディアの位置との区別は難しい。③同様の論述問題が、2021年度に慶大商学部で問われた(20字)。	標準

地歴公民(世界史) 慶應義塾大学 経済学部 2/2

III	選択式 記述式 論述式	アジアにおける共産主義 (近代～現代)	<p>問 8. ①地図中でロシアの租借地は3しかない。問 11. a. アメリカを敵視していること, 台湾を「わが国の」と強調している部分から, 中華人民共和国の指導者と判断する。b. 「わが祖国は再統一」「二つの大帝国主義——フランスとアメリカ——を打ち破り」などから, インドシナ戦争・ベトナム戦争を戦った北ベトナムの指導者と判断する。c. 「三民主義を実践」「台湾建設の成果を拡大」「大陸光復」などから, 大陸反攻を掲げていた時代の台湾の中国国民党の指導者と判断する。問 13. 経済学部では2017年度に「1970～93年のカンボジア内戦の経緯」を問う論述問題が出ており, 過去問などで十分な対策をしていれば難なく書けたであろう。問 14. 2の時期にタイと韓国が大きく落ち込んでいるのは, この2国が特に大きな打撃を受けた1997年のアジア通貨危機の影響と判断する。その約10年後に4国ともに大きな落ち込みを示しているのは, 2008年の国際金融危機(リーマン=ショック)の影響と判断する。なお, 1の時期は1985～94年, 2の時期は1995～2004年, 3の時期は2005～2014年である。</p>	やや難
-----	-------------------	------------------------	---	-----

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

経済学部では, 年代整序問題や, 出来事の起こった時期を年表中から選ばせる問題が多いため, 歴史の流れや事項の前後関係, 年号をしっかりと学習したい。経済学部では同じ年に起こった事項でも, その前後関係を判断して史実順に並べさせるような出題をするため, 単に年号の数字を覚えるだけの学習では不十分である。また, 現代の欧米史は経済学部の頻出テーマであるため, 経済学部の性格を考慮した学習が望まれる。類似の資料やグラフがたびたび扱われているため, 過去問を解くことは経済学部を受験するにあたって必須といえよう。